

令和3年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

疫病退散祈願の「百万遍」

「百万遍」は「百万遍念仏」の略語です。鎌倉時代末期に京の都で疫病が猛威をふるった時、後醍醐天皇の勅命を受けた知恩寺の高僧が7日間籠って念仏を百万遍唱えたところ疫病が治まりました。この事が各地へ伝わると、民間でも百万遍念仏が行われるようになりました。疱瘡(天然痘)や麻疹などの疫病は繰り返し流行しましたが、原因も治療法も分からず疫病神の仕業と考えられていた時代に、疫病退散が叶うという百万遍は切実な願いを持って受け入れられたことでしょう。コロナ渦の今だからこそ当時の人々の気持ちがよくわかります。その後は、疫病退散だけでなく家内安全・無病息災・鎮魂・雨乞いなど幅広い祈願のために行われるようになりました。

青梅での百万遍は、百万遍の道具入れの銘から江戸時代には伝わっていたことが分かっています。また、文献には江戸時代と明治時代の百万遍が記されています。そして、現在も行われている地区があります。

1. 百万遍の道具入れの銘から分かる百万遍

長い数珠(10m前後)・鉦・鉦を叩く木槌・百万遍を数える木札などが納められた百万遍の道具入れに銘が記されていて、その頃には百万遍が伝わっていたことが分かります。

谷野地区では正徳4(1714)年、今井柳田地区(今井一丁目)では正徳5(1715)年、原今井観音堂(今井二丁目)では天明5(1785)年、二俣尾二丁目の薬師堂では文政4(1821)年と記されています。いずれも江戸時代です。また、柚木二丁目地区では明治33(1900)年と記されています。

2. 文献に記されている百万遍

○ 上長淵村、南小曾木村での江戸時代末から明治時代初め頃の百万遍

村内に疫病が流行すると、村中の者総出で寺などにある数珠・鉦を用いて寺や御堂で「百万遍念仏」を行い、次に、総出で念仏を唱えながら各戸を廻って最後に患者の家に廻り、神送り場とされていた村境の峠で疫病神を追放する「百万遍念仏村廻り」を行いました。

寺や御堂での「百万遍念仏」は、総出(各家から少なくとも1人は出る)で大数珠を回

し鉦を叩き百万遍念仏を唱えました。「百万遍念仏村廻り」は、総出で疫病神にどうか家には来ないで下さい、病家からは退散して下さい、村から出て行って下さいと数珠を繰り念仏を唱えながら村中の各戸を廻り、他郷から来ると考えられていた疫病神を村境などで「神送り」していました。

○ 南小曾木村での明治 29(1896)年の百万遍

「疫病」は「伝染病」と称されるようになっていきます。伝染病が疑われる患者がでると隔離施設に移され、医師から役場へ届け出る体制ができ、それを受けて石灰散による消毒が行われ、感染防止のため道路封鎖、通行止めが行われています。死者は火葬後埋葬されました。その一方で、役場からの申付けにより「伝染病除けの百万遍念仏村廻り」が行われています。

3. その後の百万遍

- ・原今井観音堂(今井二丁目)では大正時代頃まで行われました。
- ・極指(成木村)では行屋(現成木 7 丁目自治会館)に保管されている百万遍道具を用いて昭和 12(1937)年頃まで行われました。
- ・柚木二丁目地区では行屋で戦前まで行われました。

4. 現在の百万遍

多数の参集者が車座になり、世話役の叩く鉦に合わせて「なむあみだぶつ」と唱えながら百万遍になるまで大数珠を回します。多くの地区で、数珠一回りを「十万遍」と数えています。

- ・谷野地区では、かつては 8 月 1 日(八朔)の行事でしたが、現在は 8 月第 1 日曜日に谷野自治会館で子ども会行事として百万遍が行われ、同時に村境に大わらじを立てるフセギ行事が行われます。
- ・今井柳田地区(今井一丁目)では、8 月第 1 日曜日に今井柳田自治会館で百万遍が行われた後、夏祭りが行われます。
- ・二俣尾二丁目では、8 月 16 日に近い日曜日に薬師堂で百万遍が行われた後、自治会総会が開催されます。
- ・今寺地区では 8 月 1 日(八朔)に報恩寺境内の地藏堂で百万遍が行われた後、村境に大わらじを立てるフセギ行事が行われてきましたが、今は今寺榎 1 カ所に立ってます。
- ・下長淵地区では百万遍の道具が発見されたことから近年復活し、春秋の彼岸の入りに玉泉寺で婦人達により行われています。
- ・大柳地区では途絶えていたのが近年復活し、十一面観音堂で老人会の婦人が中心になり 7 月 1 日に行われています。

(文責 三好ゆき江)